共同研究課題と会員の動向

前号でお知らせした通り、本年度の課題については会員の実際行つている研究をもとにして決定することになりましたので、本号はさきに会員から寄せられたアンケートを中心編してみました。御覧下さればわかる通り会員の所在は全国各地にわたつて居り、研究テーマもさまざまのバラエティを示していまして、従つてどの研究関心にもぴつたりする様な共同課題を打出すことは仲々難しく、全般的な動向のうちから共通の問題圏を幾つか選択し逐年その重点を移して成果をあげて行くより致し方がないと思います。しかし研究会は創設当時の趣旨からしても出来る限り各専門研究者の隔意のない交流が行はれなければ無意味であり、また共同課題の報告会が中心となつて年報として残つて行くものですから、課題についての積極的な関心は研究会のペロメーターでもあると思います。具体的な共通課題決定の順序としては、本号を参考として各地区連絡委員――北海道・塚本、東北・竹内、関東・中野　関西・山本　九州・内藤の諸氏――が中心になつていたゞいて会員の意見をまとめて報告してもらい、また連絡のとれない地方の方々は直接事務局宛御意見を伝えて頂いて最後的には関西側で決定したいと思います。尚課題決定に伴う課題委員の選定依頼なども時間の都合上事務局が中心になつて運び度いと思いますので、この点についての意見要望もあわせてお知らせ頂ければ幸いです。三月末日迄に意向が集まれば集約して四月発行予定の次号にその結果を報告できる予定です。

尚課題要望については前号所掲の原宏氏の兼業農家や近郊村の案があり、内山政照氏よりは今年は一つ「国家と農民」といつた大きな題目ではどうかとの御意見も出て居ります。下記アンケートの現在の研究テーマを整理して見ますと、社会学民俗学地理学関係の中心は村落構造（家族・親族・同族・祭礼・親分子分・階層・コミュニティー・共同体等を含む）や村落類型に重点があり、経済関係では過剰人口・地主制・開拓・山林関係・協同組合等があります。また労働や都市関係の研究者を中心に通勤・兼業・都鄙関係・農村工業等の問題が取り上げられ、農村文化（マスコミ・職業取得様式・技術移入・規範）や村落史（誌）の研究も進められていますし、調査の枠組、標準化尺度や態度測定法の技術、海外諸民族の村落生活にも関心が寄せられています。この様に具体的な研究対象はさまざまに分化していますから、比較的よくこれらのテーマを生かし得る課題としては、大会提案をも含めて例えば「漁（山・漁）村の近代化過程」とかその「変動過程」に焦点をおき、村落、農漁民、農漁業、文化等の諸問題の視角からの接近を交流させて見るのも一案かと思います。もつともこれは事務局というより筆者の私見にすぎません。アンケートによつて会員諸氏の率直な意向をまつ次第です。

尚本年度の大会は日本社会学会（八月北海道の予定）開催期とは切離し十月頃別途開催することになろうかと思いますが、右の課題と関連して報告の希望等も成るべく多数早期に申出て頂くことが望ましいと思います。また

アンケートに関しては次下彩二（東北大）より科学研究費補助の御協力がありましたが、課題決定の時期及開催等から本年の研究は、宿題として見送らせて頂くことになりました。共同調査の必要が提唱されて居る折からこれは是非実現させ度く大会で議論さるべき問題の一つと存じます。

（事務局　中　島　記）